



## あたたかな心、あたたかな言葉

少し前のことです。地域の方が学校にお見えになり、こんなお話を伺いました。

先日、私の家で飼っていた犬が死にました。すると、朝、その犬と散歩している時に出会う近所の子どもたちが、手紙をもって、家までお悔やみに来てくれたのです。

子どもたちの優しい気持ちが嬉しくて、そのことを校長先生に伝えに来ました。

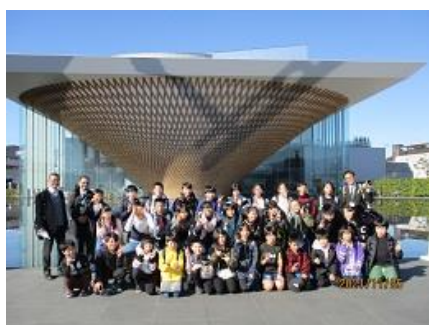
その方は、少し目を潤ませながらお話してくださいました。

なんて素敵な出来事なのでしょう。毎朝の地域の方と行き交う時に生まれたふれあい。そのふれあいの中で、15年以上も家族のように過ごしてきた愛犬を亡くした方のことを想い、手紙を届けに行った子どもたちのあたたかな気持ち。その行為をあたたかく受け止めた地域の方の気持ち。

子どもたちは、毎日、こんなあたたかな気持ちに包まれて育っているのですね。

さて、緊急事態宣言も解除され、新型コロナウイルス感染も落ち着いている状況から、10月28日～29日には5年生が1泊2日で、三ヶ日青年の家へ自然体験教室に行ってきました。また、11月25日～26日には、6年生が1泊2日で、山梨県方面へ修学旅行に行ってきました。

5年生の自然体験教室では、「一致団結」をテーマに、ウォークラリーや海洋活動（カッター体験）に挑戦しました。海洋活動で挑戦した船（カッター）は25人乗りの大きな船ですから、25人全員の息が合わせて漕がなければ前には進みません。まさに一致団結が求められます。折り返し点を過ぎた頃から息が合うようになり、スピードが上がり、無事ハーバーへ戻ってきました。



6年生の修学旅行は、富士山周辺の施設を巡りました。富士山浅間大社、富士山世界遺産センター、山中湖、リニア見学センター、富士急ハイランドで活動を楽しみました。卒業を控えた子どもたちが、仲間と最高の思い出をつくろうと、グループを考え、活動計画を立て、声を掛け合いながら行動できた、まさに修学旅行であったと思います。

この2つの行事の中で、子どもたちの素敵な姿を見ました。それは、活動の中で、今まで気づかなかった仲間のよさに気づき、互いに伝え合う姿です。「Aさんが足を痛めた時、『歩くペースを少し落とそうよ。』と声をかけたBさんって優しいなって思った。」「Cさんがこんなにも友達のことを考えて行動できるなんて知らなかった。同じ班で良かった。」活動を終え、1日を振り返る時に交わされた言葉です。そんな言葉に、周りの子から思わず拍手も起こりました。「あたたかな心」からあふれた「あたたかな言葉」は、子どもたちをあたたかな気持ちで包み込んでいきます。これからも、少しずつ、一歩ずつ、あたたかな言葉で伝え合う六合小になるように、私たちもあたたかな言葉で声かけをしてきたいと思います。

（校長 小林 正宣）